

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【東大成小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	市学習状況調査で課題がみられた算数「数と計算」を重点課題としたい。年間指導計画を見直し、習熟の時間を確保したり、単元計画に余裕をもたせたりしていく。また、児童のつまずきを把握し、既習を振り返りながら系統的に学習していく。そうすることで算数の基礎的な知識・技能の習得、活用ができるようにしていく。
思考・判断・表現	市学習状況調査で課題がみられた国語「話すこと・聞くこと」及び算数「図形」を重点課題としたい。国語では、言語活動の充実が図れるように単元計画に余裕をもたせようとする。話の内容構成を考えたり、捉えたりすることができるように指導方法を工夫していきたい。算数では習熟の時間を増やし、既習の学習を振り返りながら系統的に学習できるようにしていく。さらに実物やICT等を活用しながら図形の特徴が捉えられるようにしていく。

今年度の課題と学力向上策		
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<p><学習上の課題> 国語「言葉の特徴や使い方に関する事項」 算数「数と計算」</p> <p><指導上の課題> 学年間・個人間で大きな差がみられる。個別の支援の時間がなかなか確保できない。</p>	⇒ 授業の始めや単元の終末に学習内容を振り返る時間(習熟の時間)を設ける。【単元ごと】 ドリル・パーク等を活用し、個別最適な学びの充実を図る。【週に1回以上】 児童の実態を共有し、個別支援の充実を図る。また、それに対する成果と課題を振り返り、指導に活かす。【1ヶ月に1回】
思考・判断・表現	<p><学習上の課題> 国語「書くこと」「読むこと」 算数「図形」</p> <p><指導上の課題> 学年間・個人間で大きな差がみられる。自身の考えを説明する活動や他者と学び合う活動を充実させていく必要がある。</p>	⇒ 授業の終わりにその時間で自分が学んだことを振り返る時間を設定する。【毎時間】 話し合い活動では、ICTなどの思考ツール等を活用しながら自身の考えを説明する活動を行い、協働的な学びの充実を図る。【単元ごと】 校内研修会をとおして共通理解を図り、「学び方」「教え方」改革を推進し、児童の思考力・判断力・表現力を育成できる授業実践をする。【通年】

⑤	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能	B	① 授業の始めや単元の終末に学習内容を振り返る時間(習熟の時間)を設けることやICT等を活用し、個別最適な学びの充実を図ることができている。学年や個人間での差もあり、成果としてなかなかすぐに見えにくい部分があるが、学校全体で情報共有をしながら粘り強く取り組んでいる。
思考・判断・表現	B	② 授業の終わりにその時間で自分が学んだことを振り返る時間を設定したり、話し合い活動では、ICTなどの思考ツール等を活用しながら自身の考えを説明する活動を行ったりして協働的な学びの充実を図ることができた。「学び方」「教え方」改革については、取組に差があり、学校全体として取り組むことが必要であった。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語「言葉の特徴や使い方に関する事項」については、全国平均をわずかに上回ることができた。しかし、無回答率は、全国平均よりも高いことが分かった。全体指導の充実を引き続き行い、苦学意識のある児童については、ICT等を活用するなど、個別支援を行う必要がある。
思考・判断・表現	算数「数と計算」については、全国平均を上回ることができ、一定の成果がみられる。しかし、問題別みると分数の計算の問題が全ての問題の中で正答率が一番低く、全国平均も下回った。系統性を意識し、既習の問題を振り返りながら領域ごとの指導にあたり、知識・技能が習得できるようにしていく必要がある。

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語「言葉の特徴や使い方に関する事項」については、昨年度課題がみられたが、少しずつ改善がされてきている。引き続き指導を行い、更なる成果が出るようにしていきたい。 算数「数と計算」については、昨年度同様、市平均を下回る学年が複数あり、課題がみられた。ただ、同一集団の経年比較をすると、少しずつ正答率は上がってきており、改善はされてきている。基礎的な知識・技能が着実に身に付いていくように継続して指導していきたい。
思考・判断・表現	昨年度の課題がみられた国語「読むこと」「書くこと」については、市平均を上回り、成果がみられた学年があった。しかし、「話すこと・聞くこと」については複数学年で市平均を下回り、本校の大きな課題といえる。国語の単元の中で言語活動を工夫し、話の内容が伝わるように構成を考えることや相手が何を伝えたいのかを聞く力を育成していく必要がある。 算数「図形」については、昨年度同様、正答率が低く、本校の児童は苦学意識が強いことがわかる。引き続き公式を覚えるだけにとどまらず、その意味を理解し、活用できるようにしていきたい。

③	中間期報告	中間期見直し	
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	授業の始めや単元の終末に学習内容を振り返る時間(習熟の時間)を設けることで、小テストや単元テスト等で学習の成果がみられている。ICTは、発達段階に応じて授業や宿題等で活用している。 また、学年間の児童の実態や学校全体での情報共有を密に行っており、低学年を中心にスクールアシスタントを活用して、個別支援を手厚く行うことができている。	変更なし
思考・判断・表現	B	ワークシートやICTの記録シート等を用いて授業の終わりにその時間で自分が学んだことを振り返っている。校内研修を通して、話し合い活動を積極的にを行い、学級活動や教科指導で協働的な学びを推進している。 また、学び方改革推進担当を中心に校内研修を通して「学び方」「教え方」改革に取り組んでいる。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)